

# 甘楽町発足六十周年記念 **かんら新能** たきぎのう

◆日時 令和元年九月二十日(金)午後六時三十分開演  
◆会場 国指定名勝「楽山園」特設舞台

解説 辰巳満次郎

仕舞

岩舟 亀井 雄二  
鶴亀 亀井 保雄  
木谷 哲也  
山内 崇生  
澤田 宏司  
朝倉 大輔

## 《火入れ》

舞囃子

小袖曾我

辰巳 孝弥 大政 原岡 一之  
辰巳 大二郎 小森 飯富 孔明

栗林 祐輔 辰巳 利磨  
山内 崇生 金井 賢郎

狂言

蝸牛

太郎冠者 野村 萬斎

石山 淡朗  
山伏 野村 太一郎

後見 月崎 晴夫

能

老妻 宝生 和英  
鬼女 辰巳 満次郎

黒塚

阿闍梨祐慶 森 常好

白頭 阿闍梨祐慶 森 常好  
山伏 阿闍梨祐慶 森 常好

大政 原岡 一之 太鼓 徳川 宗久  
小鼓 飯宮 孔明 栗林 祐輔

間 熊力 高野 和憲

後見 山内 崇生  
辰巳 大二郎

木谷 哲也 澤田 宏司  
辰巳 和磨 亀井 保雄  
辰巳 孝弥

## 能「黒塚」

廻国巡礼の旅に出た熊野那智の山伏・阿闍梨祐慶(ワキ)とその一行は、陸奥国安達ヶ原で、老嫗(前シテ)の住む粗木な小屋に一夜の宿を借りる。

老嫗は白らの苦しい身の上を嘆きつつ、求められるまま杵杵輪[糸繰り車]で糸を繰りながら糸尽くしの歌を謡う。

やがて夜も更け、老嫗は「留守中、決して私の寝所を覗かないでください」と頼み、山伏たちのために薪を取りに出る。しかし、祐慶に仕える従者のひとりは、寝所の中が気になって仕方がない。山伏との攻防の末、ついに密かに部屋を脱け出して寝所を覗くが、そこには大量の死体が積み上げられていた。

従者からの知らせを受けた山伏は、「黒塚に住むという鬼は彼女であったか」と家から逃げ出すが、正体を知られたと悟った鬼女(後シテ)が怒りの形相で追ってくる。

山伏は数珠を擦って何とか鬼女を調伏し、鬼女は己の姿に恥じ入りながら去っていく。



## 狂言「蝸牛」

長命祈願のため、太郎冠者は主人に蝸牛を取って来いと言いつけられるが、彼は蝸牛を見たことはありません。でも主人から特徴は聞いていました。「藪にいて、頭が黒く、腰に貝をつけ、時々角を出す」。

そこで太郎冠者が藪に探しに行くと、寝ている山伏を発見。山伏は蝸牛になりすまし、その特徴(頭、貝、角等)も示してみせる。

山伏は太郎冠者に囃子物を教え、二人で浮かれ出します。迎えに来た主人は驚き、「あれは蝸牛ではなく山伏だ」と説得したが、太郎冠者は山伏に誘われるとまた踊り出してしまふ…

